

別紙標準様式（第7条関係）会 議 録

会 議 録

会議の名称	令和7年度 枚方市社会福祉審議会 第1回地域福祉専門分科会
開催日時	令和7月7月11日（金） 15時00分から17時00分まで
開催場所	枚方市役所 別館4階 特別会議室
出席者	所めぐみ会長、末岡妙子職務代理者、井手祐子委員、田村正治委員、 福間眞智子委員、古満園美委員、若槻美可委員
欠席者	鵜浦直子委員、亀井信順委員、宮川和香子委員
案 件 名	1. 枚方市地域福祉計画（第5期）の成果指標及び進行管理について
提出された資料等の 名称	＜会議資料＞ 資料1 枚方市地域福祉計画（第5期）の成果指標及び進行管理につ いて 参考資料1 枚方市地域福祉計画（第4期）の推進等について 参考資料2 枚方市地域福祉計画成果指標シート 参考資料3 枚方市地域福祉計画（第5期）成果指標一覧
決定事項	委員の意見を踏まえたうえ会長一任で決定とする。
会議の公開、非公開の別 及び非公開の理由	公開
会議録等の公表、非公表 の別及び非公表の理由	公表
傍聴者の数	3名
所管部署 （事務局）	健康福祉部 健康福祉政策課

審 議 内 容	
発言者	発言の要旨
会長	皆様、こんにちは。定刻になりましたので、ただいまから令和7年度（2025年度）第1回枚方市社会福祉審議会地域福祉専門分科会を開催いたします。 早速ではございますが、開催に当たり、林健康福祉部長よりご挨拶をお受けします。
	【健康福祉部長 挨拶】
会長	ありがとうございました。 それでは、本日の審議会の委員の出席状況について、事務局から報告をお願いします
事務局	ただいまの出席委員は7人です。委員定数10人のうち、2分の1以上の出席をいただいておりますので、枚方市社会福祉審議会条例第7条第3項の規定により、審議会は成立していることをご報告いたします。
会長	次に、本日の傍聴者について事務局から報告をお願いします。
事務局	傍聴者数は、3名となっています。
会長	それでは、案件に入ります前に、本日の分科会での案件内容について事務局より説明をお願いします。
事務局	本日の地域福祉専門分科会では、枚方市地域福祉計画の成果指標及び進行管理についてご審議いただきますが、これまでの経緯をお伝えさせていただきます。参考資料1「枚方市地域福祉計画（第4期）の推進等について」をご覧ください。 まず、地域福祉計画における推進体制として、第4期計画においては、3つの「基本方向」に設けた「施策目標」の実現に向け、「具体的取組」の関連事業や制度として本市が進める事務事業を中心に、その進捗状況の把握や事業の評価を行うこととしていました。その際には、地域福祉の推進のための「視点」を持ちつつも、各事務事業に設定される成果や効果といった実績測定のための指標を寄せ集めて成果指標とした上で、その達成度を確認することで、進行管理を行うという手法を用いてきました。また、外部の審議・評価体制として、「本分科会」において、庁内での会議等で行った進行管理の内容等についての審議や評価を行っていただいております。 この手法における進行管理の問題点として、地域福祉に関連する事務事業と

	して非常に多くの指標、実際に第４期計画では、37 の再掲を含む 114 事業の指標を網羅し、進行管理をしてきたことで、非常に煩雑で分かりにくいものとなってしまうていたこと、また、地域福祉計画という、地域福祉の根幹をなす概念的な計画においては、福祉分野に関する質的な評価が非常に重要であるにもかかわらず、各事業の量的な評価ばかりを追いかける形になってしまっていたことに関し、本分科会においても、質的な評価は図れないのかといったご指摘をいただけてきました。加えて、昨年度、第４回の分科会で報告させていただきましたとおり、第５期計画策定時に「福祉分野に関して、事業評価をする際に質的な評価を考える必要があります、従来の進行管理が数値と質の両方カバーができていないのか」などのご意見をいただき、第５期計画を策定した後ではございますが、今後５年間の計画期間の成果指標及び進行管理の具体的手法について、ご審議いただきたいと考えております。
会長	それでは案件に移ります。案件１「地域福祉計画（第５期）の成果指標及び進行管理について」ですが、案件量が多いことから、資料１の「１．地域福祉計画の成果指標について」及び「２．計画の実現に向けた成果指標」について、事務局より説明をお願いいたします。
事務局	<案件１ 資料１の１．及び２．について説明>
会長	ただいま、案件１の一部について事務局より報告がありましたが、何かご質問はございますでしょうか。
委員	最初に、参考資料１「枚方市地域福祉計画（第４期）の推進等について」の資料３ページ目は表示がばやけており、読めないのできちんと読むことができる資料にしてください。 次に、資料 15 ページ「２．計画の実現に向けた成果指標」の「地域で活躍できる人が増える環境づくり」における量的評価について、ＣＳＷが現行の 10 人で 248 件の相談実績があり、１人約 25 件でした。それが、ＣＳＷ人数が 14 人に増えると、14 人が 25 件ずつの相談を受けて合計 350 件になるかと思いましたが、目標値が 385 件になっています。市としては、ＣＳＷが手いっぱいではなく、１人 25 件を楽々こなしていると考えているのでしょうか。ＣＳＷの人数が増えることで、訪問先などが変わり、そうすることで種類が異なる相談に対応しないといけない。もっと連携して横のつながりも活用しないといけないことが増えていくと思います。福祉の問題は、人数が増えたからといって、こなせるケースがたくさん増えるとは限らないと思います。目標値を増やした考えをお聞きしたいと思います。

	次に、16 ページに記載されている【地域活動等の参加状況】における回答項目に校区コミュニティ協議会や自治会などがありますが、ここに P T A という項目が入っていません。今、P T A は、どんどんなくなっていったという現状がありますし、教育委員会も特に大したことだと捉えていないのか、枚方市 P T A 協議会の事務局は教育委員会にあるにもかかわらず、知らないふりをしています。ただ、地域活動を考えたときに、P T A 活動というのが最初の入口になるんです。P T A 活動をしている人たちから民生委員になられた人が結構いるのかなと思います。私の校区では、P T A 活動をした人が民生委員になることがものすごく多いです。なぜなら、P T A 活動をされている人というのは、自分の子だけではなく地域の子どもたちを守っていきたいという、社会に対する考えがあります。そういう人たちができるだけ校区の活動に参加していただきたいと考えています。P T A というのは地域活動の育成の場であるとともに、未来の地域の担い手の宝庫です。だから、P T A という存在はものすごく大きいということをもっと行政にもしっかりと捉えていただきたいです。P T A がなくなったら地域から民生委員も福祉委員も出なくなります。そこまでの危機感を持つべきです。それにもかかわらず、雪崩のごとくなくなっていきます。小学校の P T A がなくなったら、中学校の P T A はあつという間になります。以前の分科会でも P T A の問題を言ったと思いますが、せめてこの成果指標に P T A 活動というのが入れられないのでしょうか。
会長	はい、ありがとうございました。資料については、次回以降、委員のご意見の反映をお願いしたいということと、ご質問とご意見がございました。一つは C S W の相談件数でしたけれども、目標値の設定についてご質問があったのと、もう一つが最後にありました地域活動の参加状況のところ、設問の地域団体の中に P T A が入っていないということで、これを入れたほうがいいのかということです。 事務局からご回答をお願いします。
事務局	ご意見をいただきありがとうございます。 成果指標の部分については、今回の第 5 期地域福祉計画において初めて設定を行う取組であり、他市の状況などを踏まえて調査させていただきました。厚生労働省の調査においても地域福祉計画はやはり概念的な計画という部分が多く、策定された計画全体の 20% 程度しか成果指標を具体的に挙げている自治体がない状況となっております。また、具体的な成果指標としても、事業を実施している事業量を測るなど、本市の第 4 期地域福祉計画における事業量を増やしていくというようなもののみしか計画としては立てていない自治体も多い中で、事務局としても様々な手法等を考えた結果、市民意識調査や市政モニター

	アンケートにより、市民の方からのご意見を踏まえて、枚方市における地域福祉がどう進んでいくのかというところを評価していきたいということで、今回ご提案をさせていただいております。 委員からご質問がございました、15 ページにございます基本方向 2、施策目標 1 における成果指標、量的評価というところに関しましては、目標の根拠としては、CSW 人数については 14 名を目標としており、「14 名×25 件（令和 6 年度実績）×110%」とさせていただいております。現状においては、CSW 1 人当たり平均 25 件の相談を受けております。本計画の 20 ページにおいても、CSW による地域活動のコーディネート機能の強化という具体的な取組を掲げております。所管課とも確認している中で、さらに地域活動のサポートをするという目標を考えており、CSW が今も地域に出向いているとは思いますが、今回 110% という目標設定を掲げさせていただいております。こちらの 110% という数字は、他の計画なども参考として、成果指標が具体的でないものについては 110% が妥当ではないかという他国の調査などを参考とさせていただいております。 冒頭で述べましたとおり、地域福祉計画で成果指標を設定することは新たな取組ということで、令和 10 年度以降に第 6 期の計画を策定するに当たり、この第 5 期計画を振り返って最終的な評価をいただく際に、成果指標の目標が正しかったのか、適切であったのかというところについても、本分科会においてご審議いただきたいと考えております。 続いて、資料 1 の 16 ページにございます選択肢についてですが、PTA の重要性という点は昨年度の分科会においても、委員の皆様からご意見をいただいているところではございますが、今回は成果指標として前回調査と比較をしたいという考えがございます。令和 5 年度に実施しました市民意識調査がどのように変容していくのかを成果指標として考えておりますので、令和 5 年度に実施した市民意識調査における設問を変えてしまうと変容が測れなくなってしまうというところから、今回は令和 5 年度に実施した設問をそのまま実施させていただき、その変容を確認する手法とさせていただきたいと考えております。
委員	負担がかかり過ぎないように、しっかりとした活動を CSW の方々にしていただきたいです。地域活動の中で、CSW の方々とは連携しながらいろんなことをさせていただいておりますので、一生懸命動いてくれている姿をずっと見ていますから、大事にしてあげてほしいです。それと、地域活動を充実させるというのであれば、以前より分科会で発言しているとおり、北部リーフがすごくよかったです。子どものことも福祉のこともあらゆることをそこで受け止めていて、そして気楽に地域の中に入っただけだ。あれこそ地域活動を充実させるためのものでした。それがまるっとこどもセンターに統合され、すごく

	遠くなりましたし不便になりました。北部にできた、南部にできた、中部にできたというように、いろいろなところに作ってこそその地域活動の充実だと思います。代わりに地域包括支援センターが拠点になるかといったら、ならないです。地域包括支援センターというものの考え方は、もっと幅広く高齢者以外のことも含めて活動をしていってほしいですが、どんどん高齢者支援センターのようになっていってしまうのかなと心配しております。 いろいろな技術が発展していこうが、人間は対面で顔を合わせて活動してこそそのものなので、そういうものをなくさないようにしていただきたい。特に福祉に関しては、こうやってCSWの数を増やしていただくのももちろん重要なことですが、地域拠点となるところを、この広い枚方市で、校区コミュニティ協議会でもPTAでも校区福祉委員会でもどれでもブロック単位での活動をしていますので、そういうブロックの一つぐらいは拠点というのが必要になっていくと思います。地域活動を充実させるのであればそういうことではないでしょうか。
会長	ありがとうございました。昨年度、本計画の検討の際にもご意見を頂戴していた件になりますが、事務局から何かありますでしょうか。
事務局	いつも真摯なご意見をいただきましてありがとうございます。おっしゃっていただいたことは、ごもっともなことばかりだと思っております。CSWにつきましては今年度増員しましたが、目標は13圏域に1人ずつ、プラス1人で14人は必要ではないかと考えております。先ほどおっしゃっておられた北部リーフの件もそうですが、市の職員数や、財政状況などを考えたときに、いろいろ工夫をしていかなければならない状況におきまして、人を増やしていくことも非常に厳しいところがございます。ただ、こうして地域福祉計画に位置付けることで、CSWの重要性を認識して、目標数字として挙げさせていただいているとご認識いただきたいと思います。おっしゃっておられたように、CSWが相談等の業務を楽々とこなしているとは全く思っておりませんし、これはあくまで目標値を設定したうえで、工夫をしながら、担当部署も含めて取り組んでいく中で、いろいろな相談を受けて担当部署につなぐことなども行いながら、市民の皆様が抱えておられる問題を解決していきたいという姿勢だと汲み取っていただきたいと思います。 成果指標として、本日たくさんの数値も挙げさせていただきました。前期計画まではこれをA3の用紙で何十ページにもわたる事業実績をご評価いただいております。そこを、今回はきちんと「質的な部分」も「量的な部分」も、いただいたご意見を反映していこうということで、事務局が一生懸命考えて指標を作成したところです。アンケートと言っても、数字を追いかける以上は

	量的ではないかというご意見もあるかと思いますが、例えばC S Wの人数を何人増やすというところとは違った、市民の感じておられることを質として捉えて進めていきたいと考えております。 顔を突き合わせての関係は、このような会議も含めて本当に大事なことだと思っておりますし、まるっとこどもセンターもアウトリーチという形で必要に応じて対面での対応をしております。職員数が減っている中ではありますが、アウトリーチの重要性を市としても認識しながら、北部リーフのようなところも補えるような仕組みづくりができるよう、きちんと向き合っていきたいと思っておりますので、ご理解をいただければと思います。 P T Aの話はおっしゃるとおりだと思いますが、申し上げたとおり前回の市民意識調査の際に入れていなかったということもありますので、できれば次の第6期計画策定時にはその表記も入れられるよう、ご意見をいただきながら対応していきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。
会長	重層的な支援体制の整備というところでは、人の要素、拠点の要素どちらもとても重要なところです。質的に見ていくというところと言うと、質的評価と挙がっているのは本来量的に見ているので、質的評価という言葉が適切かどうか、私は質問を投げかけているところではありますが、一方で、事務局から説明がありましたように、多くの地域福祉計画が、何々をどれだけしたかというような、事業量で見ていることが少なくありません。今回、事務局が委員の皆様のご意見なども検討されて、それによって、まずはこの市民意識調査や市政モニターアンケートで、認知度や認識、意識がどう高められるか、変容という言葉も使われていましたけれども、そこを丁寧に見てみましょうというところを取り入れてみるということでした。これも先ほど説明があったかと思いますが、市民意識調査だけだと必ずしも市政に関心をお持ちの方ばかりではありません。市政モニターアンケートでは比較的関心をお持ちであり、実際に今までご回答いただいている率が8割ぐらいと非常に高いということから、両方を見ていくということで、一度やってみましょうということだったと思います。そういう意味では、全てにおいて完璧にこちらが欲しいような情報が得られるものばかりではないかもしれませんが、できる限りのことでやってみる、見てみるというところで、今回一つのチャレンジかと思っております。 ただ、もちろん昨年から議論があったとおり、今日も委員がおっしゃっていたような、相談件数だけでは測れない質的なこともありますし、ケースによっても違うわけです。直接、支援に関わっている方々にとってはどれも本当に大変なことで、何よりご本人、当事者の方やご家族が大変な思いをされているかと思いますが、そこをどうやって測るのかというところは難しいですね。本当の大変さをもう少し分かりやすく示せたらいいのではないかと、必要なのではないかと、大切なご指摘を繰り返しているかと思っております。これは

不可能とは言えないのですが、非常に難しいところです。一方で表しやすい数字としては件数などがありますので、そこは出していきながらも、引き続き意見交換や評価をしていく中で検討できればいいのではないかと思います。特に委員の方々というのは、普段それぞれの立場や関係性の中でこそ見えていらっしゃることもありますので、ぜひこの場でもご指摘とかご意見をいただけると、今後評価をしていく際に大切なこととして取り扱っていただけたらと思います。

先日、日本地域福祉学会の大会がありましたが、評価の方法についての議論は以前からしており、変化を見ようと思うと、最初の値をきちんと見ておく必要があります。また、評価について思い切ってチャレンジしているところもあります。質的評価ではなく数値で評価しますが、相当細かくデータを取っていて、何にどれぐらい行っているかという時期も見erんです。支援の最初のところなのか、どういう段階でどこに集中的に行っているか、どのようなケースなのかということを、丹念に見ていくと今度は全部並べて見えるんです。それが例えば年間だけではなくて、一定の期間で見られたりするとかです。そうすると、全体でそれを1回並べてみたときにはっきり見えるものがあるんですが、これが実はあまりされていないのです。そういうようなところも、今後やっていけるといいのではないかと思います。その辺は私たち研究者のほうでも非常に課題のところで、足りない部分だと認識しておりますので、できるだけそういった知見も反映できるようにしたいと思います。そういったところが、いろいろなところで問題意識だけではなくて、こうやってみようかというチャレンジやトライアルとして進められてきていますので、今回枚方市においても、まだこれがベストではないかもしれませんが、やれることはやってみようというところでスタートと捉えまして、そのスタートが切れるのであれば応援しつつ、もうちょっとできるところは、評価の部分も含めてやっていけたらいいなと思います。

評価の価値は、価値なんです。この地域福祉計画はどうしても理念計画になってしまいがちですが、そこが一番価値なんです。そのため、そこもどうやって測っていくのかというところは引き続き、枚方モデルみたいなものができたら一番いいかなと思います。全部は同じように見られないかもしれませんが、このところは関係者の工夫によって出してみましたとか、出せるように準備中ですよというようなことを今後できたらいいなと思います。一定の指標を設定してこれから評価していくんですが、評価をしていく中でも、引き続き意見交換するというようなところはやっていただきたいなと思います。

もうひとつ、議論の中にありましたが、目標値の設定の根拠が難しいということがあります。他市や他の計画でも、結局評価の段階になったときに、達成度というよりそもそも目標値の設定に問題があったのではないかということが結構出てきます。そのため、あまり問題を先送りにしないほうがいいのではない

	いかなという思いもあります。ただ、今回初めてというところもありますので、目標の設定値の出し方などについてもまたいろいろ出てくるだろうと思いますが、これも実験的というところで今回は見ていくというところも、先のときに少し覚悟をしながらだというところが正直あるかなと思って聞いているところです。
委員	一つ、目標値の設定根拠で質問があります。資料1の11ページ「場面別の通報先」が59.4%から66%としています。これは高い方が良いと思います。通報・相談する先として、校区コミュニティ協議会や民生委員などが挙がっていますが、「どこに相談したらいいか分からない」「誰かがすると思うので自分からはしない」「他人が連絡・相談すべきことではない」という人を限りなく少なくすることが地域力につながる、地域が強くなることだと思いますが、目標値の設定根拠について説明をお願いします。
事務局	表現が分かりにくく、大変申し訳ありません。 こちらに関してはおっしゃるとおり、連絡・相談をする、他人であつても地域の中で課題を抱えた方がいらっしゃれば、それをどこかに報告や相談をしていくことが地域力の強さだと思います。令和5年度に実施した市民意識調査において「誰かがすると思うので自分からはしない」という方が5%いらっしゃるところで、こちらの1割の方を「連絡・相談をする」方に変容させるという目標値になります。そのため、今回で言いますと「どこに相談したらいいか分からない」と回答をされた23.6%の方の20%、「誰かがすると思うので自分からはしない」「他人が連絡・相談すべきことではない」と回答された5.0%、7.9%の方の10%が「連絡・相談する」に変化した場合は、上に記載しております59.4%から66%になりますので、こちらを目標値として掲げさせていただきました。
委員	よく考えたらそういうことかと思わなくもないですが、これはずっと入ってこないです。能動的に動く人を増やすことを目標値として設定してほしいです。こういう人を減らすではなくて、こういう人を増やすとしてほしいと思います。
会長	はい、ありがとうございます。難しくはないですが、分かりにくいですね。
委員	目標値よりも、達成するためにどういう施策を取るのかということのほうが大事だと思います。

	もう一つ、先ほどPTAの話が出ていました。PTAは現状、教育委員会の所管になると思いますが、ものすごくパワーがなくなってきました。学校に問い合わせたら、自発的辞退者が増えてきている。PTAの人材は沢山いますが、地域活動に参加してもらうかということは、校区コミュニティ協議会の課題にもなっています。そのあたりは、校長先生とも話をしています。PTAの辞退の理由を聞いてみると、忙しいからとか、社会意識の変化とか、ご家庭の事情とか、ほかの用事が増えてきたとか、もう昔みたいに固定化して考えるような時代ではなくなっているということだと思います。例えば、今度お祭りをしますが、今までは手作りでやっていたものが全部業者任せで、キッチンカーを呼ぶなど、これまでのようにPTAや自治会などの住民が主体としてやってきていたことが大きく変わってきています。
会長	ありがとうございます。委員も地域福祉や地域のことを考えたときのPTAの重要性をおっしゃっているわけですね。
委員	確かに重要です。PTAの会長をやっていたときからそれは言っていました。言っていましたが、それが明らかに変わってきています。 枚方市全域でこのようなデータが出ているから、もう少し力を入れていこうと言えるデータが欲しいと感じています。
委員	責める先は、私は教育委員会だと思っています。教育委員会がしっかりと支援してこなかったことが一番の問題です。枚方市の場合、自治会、校区コミュニティ協議会は市民活動課が担当しています。NPOも市民活動課が担当しています。校区福祉委員会は社協が担当しています。民生委員・児童委員は枚方市や社協というように、地域活動をしっかり頑張っている人たちを、行政が支えています。ところがPTAは任意団体だからといって支えない。でも、PTAは本当に地域活動の根幹を担っていました。その認識が教育委員会にはない。教育委員会は学校の中のことしかしないという発想が一番駄目だと、教育長にも申しました。やはり、教育委員会が本気でPTA支援に入ってもらわないと、本当に大変なことになります。それは健康福祉部としても言っていないと、地域に目を向ける人がいなくなっているという危機感を持って欲しいです。健康福祉部で地域社会に目を向ける人を育てていけるような人材育成計画をつくってほしいです。 健康福祉部で最後のところを支えてもらって、いろいろな課と連携して、この健康福祉部が担っているものを地域の中で実行しようと思ったら、それは各校区の中の若い人たちが重要です。若い人たちの宝庫といったら、PTAしかないんです。これを枚方市で大切にしていこうと。子育て支援も大事ですが、

	地域人材支援はもっと大事です。地域に目を向ける人をどうやって育てていくのかというのが、この計画の中に入っていないように思います。
会長	ありがとうございます。一方で、そういう大変な中でも頑張っている方たちもいらっしゃるということもあるわけですね。そういうところも認めていくというようなこともできたらいいと思います。本当にいろいろ縦割りのなところはありますが、それを越えていくということもこの地域福祉ではすごく重要なところですので、ぜひこれは庁内の中でもそうですが、地域の中でもいろいろチャレンジができたらいいいと思います。 毎回ご意見をいただいて、それが切実ですね。ご縁があつて長く枚方の地域の方といろいろお話をしていますが、例えばPTAの地域活動をされている方にヒアリングをさせていただいたときにも、いろいろなご事情があつてPTA活動ができなかったという方もいらっしゃいました。だけど、子育ての手が離れてからやりたいと思われて、実際にされた方もいます。直接そのときにはいろいろな事情で関われなかったとしても、地域の中で何が起きているかということ、誰がどんなことをやってくれているかということ、よく見ています。関心を持てるような形でも伝え合えたらいいのにとこの部分はすごくあります。これは行政だけでもできないところがやはりあると思いますので、今日はPTAのお話が出ていますが、それ以外のいろいろな分野でもそうかと思います。 この成果指標の話を今日しているのは、もう取組の方向性や計画自体は作成をしていて、それを実際にどのように取組ができたか、その成果が出ているかをどのように見ていきたいと思いますという議論に移っていますが、やはり繰り返しですね。本当に大きな課題のところではそれをどうしていこうかということを考える上でも、こういう成果を見ていくというところにも、やはり入れられるものは入れていけないかという引き続きの議論は、しっかり記録にも残していただきたいと思います。すぐに即効性のあることもできたらいいと思いますが、なかなか難しいというところがあるかもしれません。 その他いかがでしょうか。ご意見はよろしいでしょうか。 では、次の案件に進ませていただいて、もし後で何かありましたらご意見をいただければと思います。 続きまして、資料1の「3. 地域福祉計画（第5期）評価について」「4. 各年度の進行管理等について」、事務局より説明をお願いいたします。
事務局	<案件1 資料1の3. 及び4. について説明>

会長	ただいま、事務局より説明がありましたが、何かご意見等はございますでしょうか。
委員	「地域で活躍できる人が増える環境づくり」という施策目標の中で、実際に今の計画では足りていないものがあると分かった場合に、健康福祉部としてこういうことをやっていかないといけないとなったときにできるのかどうか、気になるところです。現状は、そもそも事業があるから、それを計画に載せているだけですよね。それが質的な成果指標であろうが何であろうが、達成したか達成していないかだけを見ていくことを延々と続けたからといって、今足りていないものが補完されるはずがないんです。特に地域福祉という、質が一番問われる計画において、穴が見つかったときにどうやってそれを埋められるのか。例えば、民生委員が見つかりにくい状況がどんどん出てきています。そうしたら、地域が頑張って早めに見つけることができるような、そういう地域社会をつくっていく必要があります。市役所の窓口が充実しようが、どれだけCSWが増えようが、地域の中で暮らしている人たちが、地域の人たちと助け合ってみんなで生きていこうという気持ちを高めながら、実際に積み重ねてようやく安心できる社会ができるわけですが、それが今は社会がどんどん逆方向に動いています。 だから、今のこの計画や謳い文句の事業で、どれだけ社会が変わっていくのだろうと思ってしまいます。今の段階でこれだけきれいにつくりました。それをきちんとやっていきます。毎年毎年こんなにやっていますという数字をこれからの審議会を出してこられるのかなと捉えてしまったわけで、何か変えるべきときに変えられるような、新しい事業を始めたり、やめるべきものはやめたりというような、そういうことを見られる審議会になってほしいと思います。
事務局	ご意見ありがとうございます。 この地域福祉計画として、何か事業をするというのではなく、それぞれの計画やそれぞれの部署において様々な事業をしているものを、地域福祉に資するものというところで積み上げてきて、第4期計画まではそれがたくさんあり過ぎたがゆえに、何が足りなくて何を見直していくのかということもよく分からないというようなことがありました。そこを今回整理させていただいたということになります。これが正解だとは思っておりませんので、今できることとして今回ご提案をさせていただき、ここが足りないとか、このようにしていかないといけないのではないのかということは、この審議会でご意見をいただいたことをきちんと受け止めた上で、全てができるというようなご返答はできないですが、一緒に考えていきたいと思いますので、ぜひよろしくをお願いします。

会長	本当にその通りで、この場は皆さんそれぞれのお立場から発言をいただくということが非常に重要な場であります。ただし、ここで何かを決定して施策としてすぐできるということでもありませんが、だから言わないということでは決してないと思いますので、ぜひご意見を出していただけたらと思います。今日も、これまでの審議会で出た意見をどのように反映したかということも事務局からの説明にもあったと思いますので、全てではなかったかもしれませんが、かなり意見の中で取り入れられるところは実際に取り入れていただいているところもあります。それは伝え続けるということと、それを検討いただくということの両方あってこそだと思いますので、今日も非常に重要なご意見をいただいておりますけれども、闊達にご発言をいただける場に引き続きなればと思います。 今回は一つのチャレンジで、できるだけ数値でその変化を見ていくということですが、おそらく委員がおっしゃったのは、ローリングとか見直しをしていくときに、それだけしか見なくなってしまうのではないかという懸念や、計画期間の5年でもあつという間に変わってしまったたり、もう次の5年はどうなっているか分からないということですね。先ほどPTAの話が出ていましたが、5年の中でも途中で抜本的に見直しをしたりとか、加えたほうがいいものが出てきたときはどうするのかという、質問というよりは問題提起で、何とかしたほうがいいというご意見だったのかと私は受け止めたところです。本当にそれぐらい切実な状況が地域の中にあるということのご意見だと思います。中身は本当に検討していただく必要があると思いますし、一つ一つのことが同じということではないと思いますが、やっぱり都度都度そういったご意見をいただく中で、事務局の皆さんにもご検討いただけるように、会長としてはお願いしたいところでございます。
事務局	ありがとうございます、おっしゃっていただいていることは本当によく分かることですし、地域福祉計画における新たな取組というのは、皆さんからご意見をいただく中で、どういったものを次の計画の柱に据えるのか、実際の施策目標に生かすのかということになるのだと思います。会長におっしゃっていただいたとおり、質的な評価というものも、この場でいただいた意見を踏まえて、今回、見直しをさせていただいているところであります。この場でいただいたご意見を会議録としてしっかりと残して、それを振り返ってどう生かしていくかということを、事務局としても常に考えています。いろいろな新しい取組、事業としてやったものというのは、この評価シートの具体的な取組のところにに入れていけばいいですし、もっと大きな方向性としてこういうものを打ち出さなければならぬのではないかといただくれば、それをまた次の計画に反映していくというところでのローリングだと思っております。 本当にあつという間に5年も過ぎてしまう中では、今回のご意見もそこに生

	かしていければと思いますし、日頃の業務の中で新しく取り組めるタイミングがあれば、審議会でご意見をいただいていると、ご意見をもらっているからやらないといけないということも言えます。そういう考えで市もしっかり取り組んでおります。 非常にハードルが高いものもございますが、職員一同いつもこのように思いながら取り組んでいるところですので、たくさんご意見をいただければと思っています。
会長	ありがとうございます。 ぜひ委員の方から何かございましたら、お気づきの点とかもいただければと思いますが、よろしいでしょうか。元に戻って全体のところでも構いませんし、今日は特に評価をどういうふうにしていくかというところでございましたが、何か評価の関係ではいかがでしょうか。よろしいでしょうか。
委員	僕はこの計画を知り合いに見せたら、よくできていると言っていました。できるものとできないものがありますから、全部できるはずはないけれども、想定上よくできているという捉え方でした。今日はどちらかといえばP l a n・D o・S e eのP l a nの部分であって、問題は次のD oの部分です。あとは反省の部分で、次の第6期地域福祉計画に向けて、この辺りができていないからどうするかというところで、そのときには厳しい意見が委員から出てくるかもしれないですが、やる気を持って動いていただきたいと思います。
会長	ありがとうございます。今日のご意見の中にも目標値の妥当性というところのご意見をいただいておりますが、実際にこれを目標値にしていくというところを関係各所にも認識をいただいてチャレンジをしていただくということになるかと思います。繰り返しになってしまいますが、いろいろなことを調べてご検討いただいて今日こういう形で提案していただいておりますけれども、発展途上であるというところで、これを意味のあるものにしていくためにも、実際にやってみて、委員の皆様からでもですけれども、実際にかかわる事務局の皆様からもより良くしていくためにまた共有していただければと思います。 他にご意見等よろしいでしょうか。
委員	他のことでもよろしいですか。成年後見制度というのがありますけど、利用しようと思ったときにはもう遅いんです。ものすごくハードルが高くて大変で、認知症になる前にしないといけないのですよね。
事務局	ひとつは任意後見という方法がありまして、そういった不安がある場合に事前

	に後見人をつけるという方法があります。もうひとつ、困られたら「こうけんひらかた」という相談窓口がありますので、遠慮なくご相談いただきたいと思います。身寄りがなくて後見人をつけられない場合など、市で支援をする制度もあります。まずきっかけをいただければ対応していきますので、何かありましたらご相談ください。
委員	それを知らない人が多いので、そこをもっと宣伝してください。 また、このSOSキーホルダー、私はこれができたときにすぐ作ったんですけど、これも知らない人が多いです。できたときは、まだ若いから要りませんという人が多かったのですが、今は一人暮らしになったりして、持っていたらいいよと伝えますが、やはり知らない人が多いです。
事務局	地域包括支援センターや市に、こんなことで困っていると、きっかけを言っただけだとは思います。もちろん周知活動はやっておりませんが、行き届いていない部分もあるのかと思います。
会長	そのように実際に使っている人がいいよねと言う、いいよね活動も必要なんですよ。
委員	今年になって、うちの地域はみんな作っていますが、もっといろんな方にもつくってもらいたいと思っています。こんなにいいものがあるのに、なかなか知らないという声が多いので、もっと市のほうで宣伝してください。
会長	口コミが一番いいですよ。
事務局	行政でも周知はしていますが不足している部分があります。 今委員がやっていただいていることがまさに口コミの力で、周辺がやりだすとまた広がっていきます。
委員	SOSキーホルダーはどうすればもらえるんですか。年齢とか、一人暮らしとか関係ありますか。
事務局	基本は65歳以上からですが、概ね60歳ぐらいからで必要に応じてお渡ししています。持っておられて万が一倒れたときに、シールを剥がすと緊急連絡先がでてきて、すぐ連絡が取れるというものですので、鞆などに入れておいてもらえるといいと思います。

会長	成年後見制度のことでもそうですが、おっしゃりたかった趣旨としては、本当に困ってからでは遅いということですよ。できるだけそうなる前にいろんな方に知っていただけるようにということですよ。 他にご意見等よろしいでしょうか。
	【意見等なし】
会長	貴重なご意見をいただき、ありがとうございました。 いただいたご意見の集約につきましては、私に一任いただいてよろしいでしょうか。
	【異議なしの声】
会長	ありがとうございます。 それではご意見の集約につきまして一任させていただきます。 その他、事務局から連絡事項ございますか。
事務局	本日は、熱心なご意見ご審議を賜り、ありがとうございました。 今年度の本分科会につきましては、案件報告にて説明させていただきましたとおり、今年度秋頃に実施いたします市政モニターアンケートの結果及び本計画の関連事業についてご報告させていただきたく、冬頃に第2回の分科会を開催する予定としておりますので、ご多用の中大変恐縮ではございますが、ご出席いただきますようお願いいたします。 事務局からの連絡事項は以上でございます。
会長	それでは、これもちまして令和7年度第1回枚方市社会福祉審議会 地域福祉専門分科会を終了します。 皆様、お疲れさまでした。